

## 平成 29 年度第 2 回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議 議事要点

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 14 日（水）14:00～16:00
- 2 場 所 本館 5 階 庁議室
- 3 出席者 委員 15 名（志牟田委員、増田委員、山田委員、村田正義委員、高田委員、杉田委員、山崎委員、石田委員、今宿委員、原田委員、前田委員、村田亜希子委員、中島委員、柴田委員 及び 浜松市長（座長））
- 4 傍聴者 1 名 報道関係者：2 名（静岡新聞、中日新聞）
- 5 概 要 以下のとおり。

### 1 (1) 市長あいさつ

（市長）当会議は、市の総合戦略について、その進捗状況について皆様からご意見をいただきながら推進していくということで開催している。本日は平成 30 年度の施策についてご意見をいただくとともに、人口動態・出生率等についてもご意見をいただきたい。

### 1 (2) 新任委員あいさつ

（山崎委員）社会保険労務士会浜松支部長を務めており、労働教育協議会の役職についている関係で、参加することになった。よろしく願いたい。

### 2 平成 30 年度施策について

（事務局より資料に基づき説明）

### 3 人口動態・合計特殊出生率について

（事務局より資料に基づき説明）

### 4 (1) 意見交換：人口動態・合計特殊出生率について

（原田委員）生活機能の集積や利便性に関する指標の改善向上が、出生率の向上に有効である根拠はあるのか。また、未婚女性について、所得が低いということは求人と求職のミスマッチがあるのではないかと思うが、何か調べているか。ひとり親か否かなども踏まえ分析しないと、事業を提案することも難しい。

（事務局）指標との関係については、明確に出生率につながるということはなかなか言うのは困難であるが、おそらくこうであろうという研究所の考察である。

（今宿委員）子育てが大変で給料が少ないのか、要因により対策も変わってくる。子育てなら子育ての支援が必要であり、全体的にくるんでしまうと難しい。

（村田亜希子委員）若年女性の転出抑制というより、転入など移動の活発化が重要なので

は。外部の人が持ち込む文化・価値観によって地域が活性化するという考えがある。20代のミレニアル世代やより若いZ世代にはそれぞれ新たな価値観があり、そういった子たちに浜松の魅力を感じてもらえるようにできないか。

また、社会の仕組みが変化する中で、古い価値観とのあつれきが生まれており、その意味で小中高生や20代の若者への教育が必要になるのではないか。

学童保育については今後委託制になるという変化があるが、新宿区のようにサービスを受ける市民の声が、プロポーザルの業者選定の過程で反映できる仕組みを検討してみてもどうか。

(前田委員) 経済的な理由による子育ての不安から、結婚を躊躇する若年男性が多くいる。また、女性の地位や所得が向上することで、女性が自立し、シングルマザーが増える傾向があるのではないかと思う。シングルマザーに対する支援を検討してみてもどうか。

(山田委員) 20歳から24歳までの転出抑制は難しいが、子どもの頃に浜松で暮らす良さを伝えることにより、浜松市外に転出しても、浜松の良さを実感し将来的に戻ってきてもらえるのでは。

また、働いている女性にとっては親の助けが重要である。「はままつ」にはちょうど「まま」が入っているので、何かネーミングからつなげられないだろうか。

(高田委員) 学生に浜松地域の就職面の魅力がまだ伝わっていない。地域に希望する仕事がないと、就職する際に地域の外に出て行く傾向があるので、情報提供を積極的に行い、人と企業をマッチングすることが大事である。

戦略を考えるための調査には、定量的分析に加え、個別の聞き取り等による定性的な分析をすることも必要だ。静岡経済研究所が実施した「県内大学生の就職に関するアンケート・ヒアリング調査」では、県内学生・県外学生が、県内企業・県外企業に就職する動機等についてパーソナルな要因も含め、踏み込んで分析しているので、参考にしてみてもどうか。

(柴田委員) 自分の周りでは、長く勤めたい、子どもができて働き続けたいという女性が多い一方で、専業主夫を希望する男性も増えており、パワーバランスが崩れている。Uターンや転出抑制について、男女で施策が異なるのにはやや違和感がある。男女同様に取組めばいいのではないか。

(山崎委員) 女性は社会的つながりを求めて働くケースも多く、自分が携わっている企業では、女性は時短勤務が多い。自分の事務所でも、せっかく何年もお金をかけて育てた人材に結婚・出産で退職されたら打撃であることから、その人が働き続けやすいよう、パートタイムの時間帯を全て柔軟に受け入れている。色々な企業がそのようになれば女性も働きやすくなるのではないか。浜松にはいい企業がたくさんあるが、PRが上手くない。PR方法に工夫がないと、魅力が伝わらない。

最も大切なのは親、夫、その他家族による保育園の送迎など、周りのサポートである。また、隣近所でのつながりが希薄になっており、もっとつながりができるよ

うになると子供を育てやすい環境になるのではないかと思う。

(杉田委員) 人口対策は画期的な方法はなく小さいものの積み上げということになると思う。

静岡銀行への就職希望者は年々減っている。景気が良くなると中央の魅力があがる。魅力のアピールという点はあるが、社会の動向が難しくなっている。一方、静岡銀行への志望動機を見ると、地元志向の人が多くなってきている。中途退職者についてもその後地元就職する人が多い。浜松に連れてくると定着するという可能性はある。

本市に独身男性が多いのは、メーカーが多く、そこでは女性と知り合う機会があまりないという点があるのでは。また、30歳前後で海外赴任があることも障害になる。そういった、浜松独自の事情を踏まえた働き方改革を支援していくことが必要である。

社会増に関して、産業の力は大きい。例えば湖西市のプライムアースEVエナジー社には従業員が3,600人ぐらいいて、22年前の設立以降、家族を含め7~8,000人分は人口増に貢献している。企業誘致が重要である。

工業団地の設置もいいが、企業誘致のためには、土地開発における用途制限を緩和するなど、市全体で、それぞれの持ち場で企業が来やすくなるよう制度の見直しに取り組むこともひとつである。小さいものの積み重ねが必要である。

(石田委員) 将来に不安を持たせる社会というのが問題である。高校の授業や、企業を通じた新社会人への周知により、市の施策・制度を周知できるといいのでは。

また、今は保育所を探すにあたっては会社から斡旋などはなく個人任せだが、企業によるフォローがあったり、東京への進学にあたり将来浜松で働くことを前提とした補助制度があったりするといいのでは。

(事務局より、欠席した山本委員から書面で寄せられた意見を紹介)

- ・浜松市は第3児以降の出生割合が全国平均より低い。第1児出生を増やすよりも第2児、第3児を増やすことに資源を集中すると、出生率向上の効果が表れるのではないか。
- ・具体的な案としては、第3児以降の出生に対する祝い金、教育無償化、津波対策のような官民協働による出生応援のための基金設立、保育園や放課後児童会への優先入所等の配慮をしてみてもどうか。

#### 4 (2) 意見交換: 浜松バレーについて

(事務局より資料に基づき説明)

(村田亜希子委員) 周りのベンチャーで起業している方に行政に求めることを尋ねると、人材が不足しており、高い能力を持つ社員がいる大企業からの人材の流動性を高めたいのだが、大企業に勤めている社員は、将来のことや安定も考えるので、人材が回転しないという話を聞く。そこで、チャレンジし失敗した場合の支援や生活

保障があるといいと思う。

また、「投資」という思考を持ってほしいとの意見も頂いた。公平平等ということで、難しい面もあるかもしれないが、例えば子育てに優しい企業を表彰するように、社会に貢献していこうという起業家精神を持った人たちに対して、市や、有力企業が応援するようなマーケティングのようなことができるといいのでは。

(浜松市長) 全くその通りで、リスクマネーの供給について、可能性のあるところに集中的に支援をすることは必要である。そういったところから成功事例をいくつか作り、そうすると追随するベンチャーも出てくると思う。

(村田亜希子委員) チャレンジも大事だが、失敗した時のフォローが特に大事。最近「LIFE SHIFT (ライフシフト)」という本を読んだが、今の子どもたちの平均寿命は 107 歳ぐらいで、これまでの生活スタイルでは暮らしていけないと書かれていた。働き方も、一回入社して終わりではなく、その時々にあった働き方を個人が組み立てていく、という話で、これまで通りの価値観で考えるとそこからの政策に留まってしまうが、これからの社会変化の中で、子どもたちが安心して頑張れるような、応援とフォローをセットで考えることが必要である。

(志牟田委員) 先日ベトナムの企業が浜松にオフィスを開設したのだが、その際ジェトロに先方から相談があり市のトライアルオフィスを紹介した。市の産業部もフットワーク軽く対応してくれ、オープンとなった。引き続き市と連携しながら活動していきたい。浜松に来れば面白いことができそうだと思うことは、人口増加にもつながると思う。

ジェトロでは、日本のベンチャーの海外進出のお手伝いをしているが、企業誘致の観点でも、これからはスタートアップやアクセラレーター（企業の成長を加速化させる企業）というような海外企業を呼び込むことを本部で検討している。具体的にはこれからだ、浜松は事業展開にいい場所だと思うので、うまく連携できればと思う。

(山崎委員) 韓国で、街中の大企業がひとつの農村を支援するというような事業を見たことがある。ちょっと違うかもしれないが、大企業がベンチャー企業を支援するようなことを考えてもいいのでは。また、浜松市でベンチャー企業に対しての寄附による寄付金控除のような制度があるといい。

自動運転プロジェクトについてはトラック協会が第二東名で実験をしたと聞いた。流通業界も変わっていく。こういったことについて、市や色々な企業、ベンチャーで連携していくこともできるかもしれない。

(杉田委員) 浜松市はものすごく熱心に取り組んでいる。我々も応援したいが、この業界は難しく一朝一夕にはいかない。静岡銀行は 10 年前から県内企業を対象に起業家大賞というものを実施しており、200 社ぐらい応募がある。非常に有望な事業者があるのも事実だが、ベンチャーというのは 20~30 やって 1 つものになるかという世界で非常に難しい。また、資金については、今はクラウドファンディングもあるし、金

融機関のハードルも低い。そのため、芽を見つけたら物事で応援するということが大切である。大きくなっていくためには、自分自身で大きくなるというものもあるし、大企業の傘下で進めていくということもある。市もこの点は応援して頂きたい。

浜松はインフラ的にはとても優れている。工作機械があり、ものをつくろうという時に遠くに委託するのではなくすぐ近くで色々なものができる。光、自動運転、航空、ファルマいずれもそうである。ファルマについては、医学部があるのも大きい。

懸念しているのは M&A(企業買収)。せっかく育ったベンチャーが大企業に買われ、首都圏に持っていかれてしまうという流れがある。これを是非防止したく、地元の大企業による買い取りというか、マッチング・情報交換が必要ではないか。

(志牟田委員) ベンチャー支援については、浜松市が運営しているトライアルオフィスのような「起業の場」を作ることが有効だと思う。また、浜松は面白い土地だと思わせることが必要。自動運転、ドローン、下水道 PFI のような、浜松市が取り組んでいる先進的な事例を PR していくと、新しい取り組みに関心がある人が集まる素地ができていくのではないか。

(浜松市長) 今は働き方改革で副業を推奨している。この付近で副業を認めているのは浜松ホトニクスぐらいだが、他企業も副業を推奨したらどうか。また、ベンチャーの人と話していると、外国人の方が雇用しやすいので、ビザ取得支援を市で支援してくれないかというような話も聞く。

浜松市では規制の枠を外して色々なことができるという意味で、PR のためにも早く国家戦略特区を取りたい。また、人生 100 年時代であるので、リタイア後にベンチャー企業を興すという空気を作ってはどうか。

(村田亜希子委員) 長期的に見たとき、起業する親、大人の姿を見ていくことは子どもへの刺激になる。今、何かと不安に感じる人が多いなかで、希望や活力、チャレンジしようという気持ちがなかなか子ども達の周りにない。そういった価値観が育まれていくと、浜松らしさにつながるのでは。

(石田委員) エンジンの EV 化に対し、元々ある企業をうまくベンチャーと組み合わせ、産業構造の転換をうまくやれるといい。「浜松バレー」という名前は標準的すぎる。「浜松やらまいかバレー」等として、世界に PR してもいいのではないか。

(山田委員) 私は元々ベンチャーをやっていたところ昨年 4 月から浜松ホトニクスの中に入り子会社となった。ホトニクスの考えは、外に出す考えと、外に出たベンチャーをまた取り込んで活性化させるという考えがあり、多様性がある。元々自由にやっていたので、勤務時間等で悩むことはあるが、生活面で安心して働くことができるのはすごくいい形だと思っていて、そういう企業が増えれば活性化すると思う。

(浜松市長) 大企業も問題意識を持っていて、CVC(コーポレートベンチャーキャピタル) といって、企業からの投資を行っているものの、ひも付きになるということでもベンチャーからは評判が良くない。

(高田委員) ものづくり産業もいいのだが、文化・芸術に係る産業、いわゆるソフト産業、

クリエイティブ産業も是非視野に入れて進めていただきたい。

(浜松市長) その通りで、パイフotonクスという、浜松ホトニクスから立ち上がった光技術の会社がある。もともとは固い光の技術だが、できればオリンピックの企画で技術が使えないかと考えている。ネットワーク、マッチングが重要である。

(事務局より、欠席した山本委員から書面で寄せられた意見を紹介)

- ・浜松バレーを推進する包括的な機構・組織があるといいのではないか。
- ・エンジェル投資家のような、ハイリスクでも若い事業者の夢に投資するような仕組みが浜松でできれば、他の地域と差別化できるのではないか。
- ・ベンチャーが人材確保をしやすいような何らかの支援があってもいいのではないか。

#### 5 今後のスケジュール

(事務局) 次回のテーマについてご意見あれば、後日でもお知らせ願いたい。

(浜松市長) 次回は外国人人材をテーマにしてはどうか。

(事務局) ご意見踏まえ、テーマを決めていきたい。今年度は今日が最後の開催となり、新年度は6月か7月の開催を予定している。

【閉会】